

<特別講演>

長野県北部地震による

被害と復旧・復興



しまだ しげき

長野県栄村長 島田茂樹

1. はじめに

栄村は、長野県 77 市町村の最北端に位置し、境界は新潟県津南町，十日町市，湯沢町，上越市および群馬県中之条町並びに長野県飯山市，野沢温泉村，木島平村，山ノ内町に接している村で，東西 19.1km，南北 33.7km，周囲 106.0 km，面積は 271.51 km²の広大な村です。地形は複雑で千曲川最下流の長野県で一番低い標高 256mから苗場山 (2,145m) 鳥甲山 (2,037m) 佐武流山 (2,191m) など 2,000m級の山々が聳え，高低差の激しい中，千曲川，志久見川，中津川等の大小河川が環流している。豪雪地として知られている本村は，昭和 20 年 2 月，7m85 cmの積雪が記録されており，過去 69 年間の今日までの最高積雪の平均は 313cm となっている。人口は平成 25 年 9 月現在，2,185 人，世帯数 906 世帯（村内の特別養護老人ホーム施設入所者 80 世帯を含む）が，31 の集落に点在している。高齢化が進み半数の集落は 65 歳以上が 50%以上を占めている過疎・豪雪の村です。

2. 長野県北部地震の被害状況

3. 1 1 東北大震災（後に，東日本大震災と改称）の翌日，残雪が 2 メートル近く残っていた 3 月 12 日未明の 3 時 59 分，栄村と新潟県津南町の県境付近を震源とするマグニチュード 6.7，震度 6 強の地震が栄村を直撃した。村長以下職員も道路事情等で早急に登庁できず，ようやく午前 6 時に災害対策本部を役場に設置した。その後も 6 弱 2 回，5 弱 2 回の大きな揺れと余震もひっきりなしにあり，危険を感じたので村民全員の避難を決定し，消防団員の応援のもと秋山地区（役場から 30 km 離れている。ほとんど被害がなく避難の必要がなかった）を除いた全員の避難を指示した。

水道施設が全て被災し使用不可能となったため，役場，小・中学校，公民館等の避難所 7 箇所に緊急避難をしていただき，最大 1,787 名（収容延べ人員 22,622 人）が避難指示解除までの 10 日間を劣悪な条件での避難生活を余儀なくされました。

この間、消防団、消防署、警察署の皆さんには徹夜で各集落の警戒に当たっていただきました。また、役場職員も男女を問わず全員が庁舎で、或いは避難所で村民と寝食を共にし、不眠不休で被災者の支援にあたり、更に長野県、姉妹都市武蔵村山市、近隣市町村など各方面から消防団応援、給水車対応、保健師派遣等のご支援をいただき、またボランティアの大勢の皆さんからもご協力をいただきました。地震発生時の犠牲者はなかったが、避難生活中に体調をくずされて3名のお年寄りの方が病院でお亡くなりになり地震関連死となりました。

3. 復旧・復興状況

長野県が、仮設住宅55戸を建設、1年半ほど不自由な生活を強いられたが、震災から2年半が経過し、住宅は自力で再建した方や、村で建設の災害公営住宅18棟(31世帯分)に高齢者等が入居し住宅困窮者は皆無となりました。公共施設、農地もほぼ復旧したが、道路は県道1ヶ所、村道2ヶ所(橋梁1基含む)が未復旧ですが、今年度中には全て復旧の見込みです。一方復興事業は、地震直後国道117号が交通不能となり、迂回路がないため物流も滞ったこともあり、長年要望してきた悲願の県道の迂回路建設が決定した。計画では、千曲川に橋梁2本を架設し、未開通区間の解消を図るもので平成28年度に完成の予定です。又、地震で取り壊した家屋、土蔵等から貴重な古文書、古民具がたくさん発見されたため、これらの保存展示施設を計画、廃校となった古い小学校の校舎を改修する計画を進めている。

4. おわりに

全国各地から心温まる支援物資や、13,000件余の個人、企業の皆さんからの義援金、大勢の皆様によるボランティア活動など被災者支援や復旧活動へのご支援をいただきましたことに対し心から感謝を申し上げます。過疎と豪雪の小さな村ですが、元気を取り戻し、活力と魅力あふれる村づくりを目指して頑張る所存です。

以 上

※この講演概要は、技術フォーラム「講演集」の原稿から本文のみを抜粋したもので、
公共施設等の被害状況表と参考資料は省略させていただきました。